

公 開
資料 3

第 3 8 6 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 7 年 6 月 3 0 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 規則関係						
提案 1	「日本学術会議主催 学術フォーラムの選 定及び実施につい て」の一部を改正す ること	会長	4	「日本学術会議主催学術フォーラムの選 定及び実施について」について、学術 フォーラムの選定に関する改正を行う必 要があるため。	会長	—
提案 2	日本学術会議協力学 術研究団体規定の改 正	科学者委員会委 員長	6	・申込書の記載を男女別から性別に改め ることでLGBTQに対応するため。 ・提出先を変更することで郵送以外 (メール等)の提出方法を可能にするた め。	三枝副会 長	—
2. 委員会関係						
提案 3	(分野別委員会) (1)分科会委員の決定 (追加2件) (2)小委員会委員の決 定(追加1件)	(1)第一部長、第 三部長 (2)第二部長	9	分科会及び小委員会における委員を決定 する必要があるため。	第一部 長、第 二部 長、第 三部長	(1)内規12 条2項 (2)内規18 条
3. 国際関係						
提案 4	令和7年度代表派遣 について、実施計画 を変更すること	会長	10	令和7年度代表派遣について、実施計画 の変更をする必要があるため。	日比谷 副会長	国際交流事 業の実施に 関する内規 第21条2項
4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和7年度第3四半期】						
提案 5	学術フォーラム 「米国科学技術政策 の転換、その影響を 考える」の開催につ いて	哲学委員会委員 長	11	主催：日本学術会議 日時：令和7年10月5日(日)13:00～ 17:00 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド 開催) ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案 6	学術フォーラム 「循環経済の実現に 向けたものづくりの 役割」の開催につ いて	機械工学委員会 委員長	13	主催：日本学術会議 日時：令和7年11月7日(金)13:00～ 17:35 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド 開催) ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案 7	学術フォーラム 「Future Earthと地 球環境激変の10年： 私たちはどこまで来 たのか？これからど うすべきか？」の開 催について	環境委員会委員 長、地球惑星科 学委員会、 フューチャー・ アースの推進と 連携に関する委 員会委員長	15	主催：日本学術会議 日時：令和7年11月29日(土)13:00～ 17:30 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド 開催) ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案 8	学術フォーラム 「世界の防災の未 来：災害の経験をふ まえたメガシティの 防災力強化に向けた 科学技術イノベー ション」の開催につ いて	土木工学・建築 学委員会委員長 防災減災学術連 携委員会委員長	18	主催：日本学術会議 日時：令和7年12月9日(火)10:30～ 終了時刻調整中 場所：日本学術会議講堂(ハイブリッド 開催) ※第三部承認	—	内規別表第 2

提案9	学術フォーラム 「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	20	主催：日本学術会議 日時：令和7年12月11日（木） 開催時刻調整中 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第二部、第三部承認	—	内規別表第2
提案10	学術フォーラム 「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	22	主催：日本学術会議 日時：令和7年12月21日（日）13:00～16:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「量子が世界を変える：科学の100年と未来への挑戦」の開催について	物理学委員会委員長	25	主催：日本学術会議物理学委員会 日時：令和7年11月15日（土）12:30～17:35 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2

5. その他のシンポジウム等

提案12	公開シンポジウム 「次の新興・再興感染症にどう備えるか」の開催について	第二部長、科学者委員会委員長	31	主催：日本学術会議第二部会、日本学術会議北海道地区会議、北海道大学 日時：令和7年8月7日（木）13:00～16:00 場所：北海道大学医学部学友会館「フラテ」フラテホール（北海道札幌市北区）（ハイブリッド開催） ※第二部長、科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム 「AI時代に「対話」の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会—」の開催について	第一部長、科学者委員会委員長	34	主催：日本学術会議第一部会、日本学術会議北海道地区会議、公立はこだて未来大学 日時：令和7年8月10日（日）9:30～11:50 場 所：函館市亀田交流プラザ 講堂（北海道函館市）（ハイブリッド開催） ※第一部長、科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「第20回防災学術連携シンポジウム『複合災害に立ち向かう防災の知恵—新潟と能登の経験から—』」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長	36	主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会 日時：令和7年9月6日（土）～9月7日（日） 場所：オンライン開催	—	内規別表第2
提案15	公開シンポジウム 「才能が芽吹く大学入試へ：日本の科学技術と大学教育のこれから」の開催について	総合工学委員会委員長	38	主催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会、公益社団法人応用物理学会 日時：令和7年9月8日（月）13:30～17:00 場所：名城大学天白キャンパス（愛知県名古屋市）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案16	日本学術会議近畿地区会議学術講演会 「社会の持続可能性と水問題」の開催について	科学者委員会委員長	40	主催：日本学術会議近畿地区会議 日時：令和7年9月13日（土）13:00～17:00 場所：京都大学芝蘭会館稲盛ホール（京都市左京区）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2

提案17	公開シンポジウム 「人口減少・人口偏在 社会に求められるヘルス ケア人材：第2回」の 開催について	臨床医学委員会委員長、 健康・生活科学委員会 委員長、歯学委員会 委員長、薬学委員会 委員長	42	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、歯学委員会、薬学委員会 日時：令和7年9月28日（日）13：00～15：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「科学におけるダイバー シティを考える～自分 らしい進路・キャリアパス 選択のために～」の 開催について	第一部長、第二部長、 第三部長、科学者委員 会委員長	45	主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 日時：令和7年10月4（土）13:30～16:00 場 所：オンライン開催 ※第一部承認、第二部承認、科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム 「縮小社会における地 域の持続可能性」の 開催について	地域研究委員会委員長	48	主催：日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会、経済地理学会北東支部 日時：令和7年10月11日（土）13：00～17：30 場所：北海道教育大学函館校（北海道函館市）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム 「AI導入による有機・ 高分子化学の10年先の 将来展望」の開催に ついて	化学委員会委員長	50	主催：日本学術会議化学委員会有機化学分科会、化学委員会高分子化学分科会 日時：令和7年10月20日（月）12:50～17:30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） ※第三部承認	—	内規別表第2

6．後援

提案21	国際会議の後援をすること	会長	53	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・国際栄養学会議（International Congress of Nutrition IUNS-ICN2025）におけるシンポジウム “Cutting-edge nutritional research by promising young Japanese researchers”	—	後援名義使用承認基準3（2）ウ
提案22	国内会議の後援をすること	会長	54	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第66回大気環境学会年会 ・第27回日本感性工学会大会 ・第46回日本熱物性シンポジウム ・化学工学会第56回秋季大会特別シンポジウム「2050年カーボンニュートラルへの道」	—	後援名義使用承認基準3（2）ウ

7．その他

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は7月28日(月)14:30～開催予定。					56

日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について（平成24年2月20日日本学術会議第146回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
2 テーマの選定まで ① 各部、<u>委員会及び若手アカデミー</u>に対し、事務局企画課担当にて企画案の募集通知を発出する。 （略） ② 各部、<u>委員会又は若手アカデミー</u>の企画案を受領する。 企画案の提出者は部長、<u>委員長又は若手アカデミー代表</u>のみとし、分科会等が中心となって提案するものであっても親委員会の委員長名による提案とする。なお、提案に当たっては、事前に関係部の承認を得ることとする。 （略）	2 テーマの選定まで ① 各部<u>及び委員会</u>に対し、事務局企画課担当にて企画案の募集通知を発出する。 （同左） ② 各部<u>又は委員会</u>の企画案を受領する。 企画案の提出者は部長<u>名又は委員長名</u>のみとし、分科会等が中心となって提案するものであっても親委員会の委員長名による提案とする。なお、提案に当たっては、事前に関係部の承認を得ることとする。 （同左）

別紙 1 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 第 部部長 委員会委員長 <u>若手アカデミー代表</u> _____ 日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について（回答） （略）	別紙 1 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 第 部部長 委員会委員長 _____ 日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について（回答） （同左）
--	--

附 則（令和 7 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議協力学術研究団体規程（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
別表 1（第 2 項関係） (学術研究団体用) 日本学術会議協力学術研究団体申込書 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 申込団体名 代表者氏名 日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を受けたいので、関係書類を添えて下記により申し込みます。 記 1 名称 和文（ふりがな） 英文 2 代表者（氏名、所属・肩書き） 3 設立年月日 4 個人会員である構成員の数(学部学生を除く。)、<u>性別ごとの構成員の数及び比率</u> 5 役員の数、<u>性別ごとの構成員の数及び比率</u> (略) 添付物 1 会則・約款、設立趣意書、機関誌 3 部 2 役員名簿、会員名簿 <u>性別</u>、所属する大学等機関及び職名を含む。 3 協力学術研究団体指定要件確認書 4 その他活動状況の分かる資料	別表 1（第 2 項関係） (学術研究団体用) 日本学術会議協力学術研究団体申込書 令和 年 月 日 日本学術会議会長 殿 申込団体名 代表者氏名 日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を受けたいので、関係書類を添えて下記により申し込みます。 記 1 名称 和文（ふりがな） 英文 2 代表者（氏名、所属・肩書き） 3 設立年月日 4 個人会員である構成員の数(学部学生を除く。)、<u>男女の別及び女性比率</u> 5 役員の数、<u>男女の別及び女性比率</u> (略) 添付物 1 会則・約款、設立趣意書、機関誌 3 部 2 役員名簿、会員名簿 <u>男女別</u>、所属する大学等機関及び職名を含む。 3 協力学術研究団体指定要件確認書 4 その他活動状況の分かる資料

提出先 日本学術会議事務局

(略)

別表 2 (第 2 項関係) (学術研究団体の連合体用)

日本学術会議協力学術研究団体申込書

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

申込団体名
代表者氏名

日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を
受けたいので、関係書類を添えて下記により申し込みます。

記

- 1 名 称 和文 (ふりがな)
英文
- 2 代表者 (氏名、所属・肩書き)
- 3 設立年月日
- 4 役員の数、性別ごとの構成員の数及び比率
(略)

- 添付物
- 1 会則・約款、設立趣意書
 - 2 役員名簿 (性別、所属する学術研究団体及び大学等機関名を含む。)
 - 3 その他活動状況の分かる資料

提出先 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局企画課

日本学術会議協力学術研究団体担当

電話 (03) 3403-6295

(略)

別表 2 (第 2 項関係) (学術研究団体の連合体用)

日本学術会議協力学術研究団体申込書

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

申込団体名
代表者氏名

日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を
受けたいので、関係書類を添えて下記により申し込みます。

記

- 1 名 称 和文 (ふりがな)
英文
- 2 代表者 (氏名、所属・肩書き)
- 3 設立年月日
- 4 役員の数、男女の別及び女性比率
(略)

- 添付物
- 1 会則・約款、設立趣意書
 - 2 役員名簿 (男女別、所属する学術研究団体及び大学等機関名を含む。)
 - 3 その他活動状況の分かる資料

提出先 <u>日本学術会議事務局</u> (略)	提出先 <u>〒106－8555 東京都港区六本木7－22－34</u> <u>日本学術会議事務局企画課</u> <u>日本学術会議協力学術研究団体担当</u> <u>電話 (03) 3403－6295</u> (略)
---------------------------------	---

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（追加 2 件）

（哲学委員会現代における「いのち」を考える分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
斯波 真理子	大阪医科薬科大学循環器センター特務教授	第二部会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：18 名】

（化学委員会 IUCr 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
富永 依里子	広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授	連携会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、追加決定後の委員数：16 名】

○小委員会委員の決定（追加 1 件）

（農学委員会土壌科学分科会 soil health 小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
川嶋 四郎	同志社大学法学部法律学科教授	第一部会員
西岡 加名恵	京都大学大学院教育学研究科教授	第一部会員

【設置：第 373 回幹事会（令和 6 年 10 月 21 日）、追加決定後の委員数：18 名】

令和7年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第 381 回幹事会(令和7年2月 27 日)にて承認済)の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	第 32 回国際地図学会 議(ICC)シンポジウム	8月 16 日 ～ 8月 22 日 ↓ 8月 17 日 ～ 8月 22 日	バンクーバー (カナダ)	石川 徹 連携会員 (東洋大学情報連携学部教授)	地球惑星科学 委員会 IGU 分 科会	・会期の変更
2	国際北極科学委員会 (IASC)北極科学サミ ット週間 2026	令和8年 3月 27 日 ～ 4月 2 日 ↓ 令和8年 3月 25 日 ～ 4月 1 日	オーフス (デンマーク)	榎本 浩之 連携会員(特任) (大学共同利用機関法人情報・ システム研究機構国立極地研究所 副所長／特任教授)	地球惑星科学 委員会地球惑 星科学国際連 携分科会	・会期の変更

日本学術会議主催学術フォーラム
「米国科学技術政策の転換、その影響を考える」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：哲学委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年10月 5 日（日）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

米国の科学技術政策はいま激動の最中にある。かねてより二大政党制の中での政策方針の変化の度に、米国の科学技術そして学術研究は大きな影響をうけてきた。しかし、今般の変化はこれまでの比ではない。例えば米国海洋大気庁

(National Oceanic and Atmospheric Administration: NOAA) や米国衛生研究所 (National Institution of Health: NIH) における研究開発の停止やファンディングの凍結といった影響は、すでに多くの報道もされている。また大学へのファンドの取りやめなども多くの耳目を集めている。

このような米国における科学技術・学術政策の変化は、世界的な影響をもたらすものであり、日本もまた例外ではない。各種のデータベースの改変・停止や、ファンディングの方針変更による直接的な影響をうける研究者も多いだろう。また留学生のビザ停止などは、大学生・大学院生の進路にも大きな影響を与えるものである。

果たして米国の昨今の変化は、我々の研究エコシステムにどのような影響を与えるのだろうか。本シンポジウムでは、米国の科学技術政策のこれまでを俯瞰した上で、大学が直面する状況、そして日本と世界の科学技術・学術研究が受けるインパクトを洞察し、日本の研究が備えるべき視点を考察する。

7. 次 第：

コーディネーター

中村 征樹（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構・教授）

標葉 隆馬（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・准教授）

野尻美保子（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授）

演 者
司 会

中村 征樹（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構・教授）

開会挨拶・趣旨説明

野尻美保子（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授）

話題提供 1：「米国の科学技術政策の特徴」

遠藤 悟（日本学術振興会学術情報分析センター・分析研究員）

話題提供 2：「米国研究型大学のこれまでと抱える課題」

阿曾沼明裕（東京大学大学院教育学研究科・教授）

話題提供 3：「日本と米国の科学技術政策の今後－第 7 期科学技術・イノベーション計画をめぐる議論から」

杉本 舞（日本学術会議連携会員／関西大学社会学部・教授）

話題提供 4：「米国の科学技術政策の変容と人文・社会科学」

福本江利子（東京大学大学院総合文化研究科・講師）

パネルディスカッション

コーディネーター

標葉 隆馬（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・准教授）

パネリスト

話題提供者 4 名のほか、

地球惑星委員会、環境学委員会、基礎生物学委員会から
それぞれ参加調整中

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：機械工学委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年11月 7 日（金）13：00～17：35
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

持続可能な社会実現に向けて、循環経済実現の必要性が叫ばれており、国民的関心も高まっている。その実現のためには、資源を消費し、また将来廃棄物となる工業製品を作り出す製造業の構造転換が不可欠である。それは、資源の循環的な活用だけでなく、ものづくりベースのサービス提供産業への転換によって初めて成し遂げられる。同時に、消費者による受容、消費者との連携も必要不可欠な課題である。第三部機械工学委員会生産科学分科会では、循環経済に代表される持続可能な社会実現に向けた製造業の在り方、消費者との連携を含む製造業が取るべきアクションについて議論してきた。これらの議論の結果を踏まえ、本フォーラムでは、このような製造業の構造転換の必要性、実現可能性、実現に向けた課題について、人文・社会科学、工学の視点から総合的に議論し、広く国民の意見を聴取し、双方向の対話を行うことを目的とする。

7. 次 第：

コーディネーター

梅田 靖（日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター教授／生産科学分科会委員長）

開会挨拶・趣旨説明

光石 衛（日本学術会議会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授）

調整中 （経済産業省）

調整中 （一般社団法人日本経済団体連合会）

演 者

「循環経済を実現する持続可能なものづくり」

梅田 靖（日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター教授）

「サステナブルな産業構造に向けて～環境保全を新たな産業発展の契機とするには？」

諸富 徹（日本学術会議連携会員／京都大学大学院経済学研究科・地球環境学堂教授）

「サーキュラーエコノミーと消費者コミュニケーション」

西尾チヅル（日本学術会議連携会員／筑波大学副学長／ビジネスサイエンス系教授）

「設計工学の系譜と課題 ～システムからエコシステムへ～」

藤田喜久雄（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻教授）

「サステナビリティに向けた製造業の方向性」

佐田 豊（日本学術会議第三部会員／株式会社東芝執行役上席常務 CTO）

パネルディスカッション「持続可能な社会の中の製造業のありたき姿」

モデレーター

松原 厚（日本学術会議連携会員／京都大学大学院工学研究科教授）

パネリスト

上記講演者

宮崎 克雅（株式会社日立製作所主管研究長）

閉会あいさつ

須藤 雅子（日本学術会議第三部会員／ファナック株式会社 FA 研究開発統括本部・技監）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「Future Earthと地球環境激変の10年：私たちはどこまで来たのか？
これからどうすべきか？」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：環境学委員会、地球惑星科学委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年11月29日（土）13：00～17：30
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

地球環境変化に関する複数の大きな国際研究プログラムが合併して Future Earth が発足し、今年で 10 年目を迎える。この間、Future Earth と関連の研究は、各専門分野において、また分野融合の学際研究や社会との超学際研究において、国際的にも日本国内でも目覚ましい発展を見せた。日本学術会議にも複数の関連する委員会等を設置し、研究者や社会の関係者との交流を促進し、フューチャー・アース日本委員会や国際事務局との連携も深めてきた。しかし、研究者の努力と警告にも関わらず、大気、海洋、地上、そして人類を含む生態系が直面する地球環境の問題は、一層厳しさを増している。

この 10 年間を振り返り、研究ネットワークとしての Future Earth の成果を評価すると同時に、何が課題だったのか、今後必要な活動は何かをアカデミアと社会の関係者とともに真摯に洗い出し、今後、新たな 10 年間に、地球社会に貢献することを意図し、学術フォーラムを開催する。

7. 次 第

演 者

総合司会

張 勁（日本学術会議連携会員、富山大学学長補佐／学術研究部理学系教授）

開会挨拶ならびに趣旨説明

中村 尚（日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター教授）

来賓挨拶

調整中

「2015 年の Future Earth」

安成哲三（総合地球環境学研究所前所長）

「2025 年の Future Earth」

春日 文子（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授）

「統合的成果 1 - 10 New Insights in Climate Science」

Giles B. Sioen（東京大学特任講師）

「統合的成果 2 - IPCC IPBES との連携」

江守正多（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

「統合的成果 3 - 洪水リスク予測、環境と文化など日本の先端的研究」

谷口 真人（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

「KAN の成果と課題」

渡辺知保（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環教授）

「GRN の成果と課題 - iLEAPS」

近藤雅征（広島大学 IDEC 国際連携機構准教授）

「GRN の成果と課題 - I M B e R」

齊藤 宏明（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授）

「beyond SDGs」

蟹江憲史（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

「フューチャー・アース日本委員会の意義」

浅利美鈴（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授）

パネルディスカッション・総合討論

ファシリテーター

張 勁（日本学術会議連携会員、富山大学学長補佐／学術研究部理学系教授）

パネリスト

金谷 有剛（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境
部門地球表層システム研究センターセンター長）

落合 治（JAXA 宇宙利用ミッション本部 衛星利用推進センター 主任）

河宮未知生（東北大学変動海洋エコシステム高等研究所教授）

高薮 縁（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

山本百合子（日本学術会議特任連携会員、公益財団法人イオン環境財団専務理事兼
事務局長）

閉会挨拶

沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「世界の防災の未来：災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化
に向けた科学技術イノベーション」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：土木工学・建築学委員会、防災減災学術連携委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年12月 9 日（火）10：30～（調整中）
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

2025 年に IRDR 分科会として発出を予定している提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」について、災害リスクを考慮した都市の開発、社会的脆弱層への対応、効果的な情報伝達に不可欠な制度と広域的・国際的な連携等を国内外の専門家が議論する。さらに、関東大震災や阪神・淡路大震災、能登半島地震への対応は防災体制や制度設計の見直し、科学技術の活用に関して、今後の都市防災に示唆を与えるものであり、実践的知見の共有を通じて議論を深める。将来の防災を担う研究者や実務者及び著名な専門家を、国内およびアジア太平洋地域を含む海外から招き、知見の交流と協働を促進する。

7. 次 第：

コーディネーター

竹内 徹（日本学術会議第三部会員／東京科学大学名誉教授）

寶 馨（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長／
京都大学名誉教授）

田村 圭子（日本学術会議第三部会員／新潟大学危機管理本部危機管理センター教
授）

演 者

防災減災学術連携委員会委員

IRDR 分科会委員、小委員会委員 ほか
（調整中）

まとめ

竹内 徹（日本学術会議第三部会員／東京科学大学名誉教授）

寶 馨（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長／
京都大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：健康・生活科学委員会、環境学委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年12月11日（木）開催時刻調整中
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

化学物質は基本的な生活やその質の向上に不可欠であり、地球上に存在する化学物質の種類は対数的に増加し続けている。これらの化学物質の中で、生活環境中に放出され、特にヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつ物質が環境化学物質と呼ばれている。その種類や量もまた、人間活動に伴って増大している。

我が国のかつての公害をはじめとして、人類は環境化学物質による甚大な健康被害を経験し、その後各国で化学物質の健康への悪影響を防止するための施策や研究が続けられている。近年でも、生活環境中にさまざまな化学物質が検出され、社会的な関心も高い。科学的には低用量で健康に悪影響を及ぼす作用様式があることが新たに明らかにされ、また健康への影響が遅発的に現れる例や世代を越える可能性など、かつては想定されていなかった影響発現様式が報告され、それらの評価方法や施策への反映方法について検討が必要とされている。

このような状況から、現在から将来にわたって健康的な生活環境を維持することを目標として、環境化学物質全体を視野に入れ、最新の研究上の知見をふまえて今後の環境保全について検討することが必要である。特に全容が未解明な環境化学物質の作用様式を明らかにし、同様の作用様式をもつ化学物質をグループ化するなどの方法でヒトに対する影響を把握し、また曝露評価を進め、リスクの大きさを推定する研究を行い、管理につなげることが求められる。この問題に関与する課題は極めて多様であるが、目標を実現するためには総合的・俯瞰的な見地から学術分野横断的な検討が有用であると考え、多分野の関係者が一堂に会して議論を行う場としてフォーラムを企画した。まず、本フォーラムで特に健康影響評価の課題を中心に提起して意見交換を行い、関係する課題の検討に反映させる予定である。

7. 次 第：

コーディネーター

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科国際保健医療事業開発学分野教授）

野原 恵子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域客員研究員）

演 者

環境化学物質の健康影響リスク評価

青木 康展（日本学術会議連携会員（特任）／国立環境研究名誉研究員）

従来の毒性とシグナル毒性：内分泌かく乱との関係

菅野 純（日本学術会議連携会員／国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉職員）

環境化学物質の多世代・継世代影響

野原 恵子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康領域客員研究員）

オルガノイド技術を用いた環境化学物質の影響評価

戸塚ゆ加里（星薬科大学衛生化学研究室教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 企 画：健康・生活科学委員会、臨床医学委員会
3. 日 時：令和 7（2025）年12月21日（日）13：00～16：00
4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多くの学問分野の連携のもと、あらゆる市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉とケアを核とする社会モデルのあり方を模索し、共につくり上げていく学術と教育が連動する活動を意味する。この活動を通して、人々の暮らしにケアサイエンスとその成果を根づかせることで実現する相互支援社会を「ケア共同社会」と呼び、その構築を目標として掲げている。

本フォーラムは、誰もがケアし、ケアされるケア共同社会の実現に向けて、1）ケアサイエンスとケアの担い手について、2）ケア・イノベーションについて、3）ケアのあり方について、をそれぞれのテーマとする3回のシリーズの第3回目にあたる。これらの連続シンポジウム及び学術フォーラムにより、人間にとってケアをする／されることの意味やケアの双方向性・重層性など多方面からの考察を行い、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探る。そして、関連する学問分野や実践活動の担い手、制度の担い手など多様な関連主体がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズの第3回目となる本フォーラムでは、「ケアをめぐる格差と持続可能性」を主題とし、ケアの担い手と受け手の間に存在する様々な不均衡に焦点を当てる。第一部では、エスニシティ、ジェンダー、ヤングケアラーといった観点から、誰がケアを担わされているのかという役割配分の格差を考察する。第二部では、地域的条件や障害特性によって生じるケアへのアクセス格差が、当事者や家族の生活に及ぼす影響について検討する。第三部では、ケアを受けながら働くことの困難や、支援者自身の支援の必要性といった、ケアの持続可能性に関わる課題を取り上げる。総合討論では、

参加者との質疑応答も積極的に行う。

本フォーラムを通じて、誰もが「ケアすること・ケアされること」を肯定的に引き受けながら生きられる社会＝ケア共同社会の実現に向け、制度、実践、価値観の再構築を目指すものである。

7. 次 第：

コーディネーター

熊谷晋一郎（日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター当事者
研究分野教授）

演 者

司 会

熊谷晋一郎（日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター当事者
研究分野教授）

副司会

山川みやえ（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護
科学分野老年看護学准教授）

開会挨拶

磯 博康（日本学術会議第二部会員、日本学術会議副会長、国立健康危機管理研
究機構 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター長／
理事長特任補佐）

第一部 ケア役割の配分における格差

話題提供1 エスニシティ・ナショナリティ：途上国のケア労働力の搾取

森山美知子（日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）

話題提供2 ジェンダー：子育てと仕事の両立、老々介護のジェンダー差

臼井恵美子（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）

話題提供3 ヤングケアラー

門田 行史（自治医科大学ヘルスエクイティ地域共創センター副センター長）

第二部 ケアへのアクセシビリティの格差

話題提供1 地理的要素：ケアの地域格差：ケアニーズの高さとケアアクセシビ
リティの関係の修飾要因

佐藤 栄治（宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科建築計画研
究室教授）

話題提供2 強度行動障害のある人々の生活

日詰 正文（独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部部長）

第三部 持続可能なケアに向けた課題

話題提供 1 生産活動と再生産活動の分離：ケアを受けながら働くこと

岩岡 美咲（一般社団法人わをん理事 頸髄損傷当事者）

話題提供 2 支援者支援

大江美佐里（日本学術会議連携会員、久留米大学保健管理センター准教授）

総合討論

司会

山川みやえ（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授）

パネラー

森山美知子（日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）

臼井恵美子（日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授）

門田 行史（自治医科大学ヘルスエクイティ地域共創センター副センター長）

佐藤 栄治（宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科建築計画研究室教授）

日詰 正文（独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部部長）

岩岡 美咲（一般社団法人わをん理事 頸髄損傷当事者）

大江美佐里（日本学術会議連携会員、久留米大学保健管理センター准教授）

まとめ

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学副学長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム
「量子が世界を変える：科学の100年と未来への挑戦」

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本天文学会、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、大阪大学核物理研究センター、大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所、九州大学応用力学研究所、京都大学基礎物理学研究所、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構、東京大学宇宙線研究所、東京大学物性研究所、科学研究費助成事業学術変革領域研究(A)「アシンメトリ量子」（高エネルギー加速器研究機構は確定、他は現在、調整中）
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会（調整中）
4. 日 時：令和7（2025）年11月15日（土）12：30 ～ 17：35
5. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
量子力学誕生から100年を迎える2025年、物理学は素粒子から宇宙、計測技術、産業応用まで幅広く発展を遂げている。本シンポジウムでは、「量子が世界を変える：科学の100年と未来への挑戦」と題し、量子技術の最前線を紹介し、基礎科学が未来社会に果たす役割を考察する。また、基礎研究の重要性を広く共有し、次世代育成に向けた課題を参加者と共に議論する。これらを通じ、物理学の可能性をわかりやすく伝え、未来を築く一歩となる場を目指す。

9. 次 第

開会挨拶、趣旨説明 12:30～12:50

腰原 伸也（日本学術会議第三部会員／東京科学大学理学院化学系教授）

光石 衛（日本学術会議会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授）（※ 調整中）

宮下 精二（一般社団法人日本物理学会会長／東京大学名誉教授）

第1セッション 12:50～14:20

「量子力学 100 年の軌跡と未来」

司 会：網塚 浩（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院理学研究院教授）

「量子力学の誕生：どのような世界がそれ引き起こし、どのように世界を変えたか」

伊藤 憲二（京都大学大学院文学研究科教授）

「情報科学技術を用いた月探査ミッションデータの地質解析」

大竹 真紀子（岡山大学学術研究院先鋭研究領域（惑星物質）教授（特任））

「量子力学の世紀から量子情報科学の世紀へ」

中村 泰信（国立研究開発法人理化学研究所量子コンピュータ研究センターセンター長）

休憩（20 分）

第2セッション 14:40～16:10

「物理学の挑戦：知がつなぐ未来」

司 会：山崎 祐司（日本学術会議連携会員／神戸大学理学研究科物理学専攻教授）

「地下から素粒子と宇宙をみる：ハイパーカミオカンデの挑戦」

横山 将志（東京大学大学院理学系研究科物理学専攻物理学科教授）

「TBA（星形成、惑星形成）」

坂井 南美（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所主任研究員）

「大強度陽子加速器施設 J-PARC におけるミュオンビームの探究と応用」

梅垣 いづみ（大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所助教）

休憩（20 分）

第3セッション（パネルディスカッション） 16:30～17:30（60 分）

「物理で描く未来の自分」

司 会：浅井 歩（日本学術会議連携会員／京都大学大学院理学研究科附属天文台准教授）

モデレーター：森 初果（日本学術会議第三部会員／東京大学物性研究所教授）

パネリスト：

第1、第2セッションの講演者

奥村 幸子（日本学術会議第三部会員／日本女子大学理学部数物情報科学科教授）

新永 浩子（日本学術会議連携会員／鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授）

閉会挨拶 17:30～17:35（5分）

櫻井 博儀（日本学術会議第三部会員／国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器科学研究センターセンター長）

10. 関係部の承認の有無： 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和7年度第3四半期】総括表

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和7年度第3四半期】 6件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案5	「米国科学技術政策の転換、その影響を考える」 (企画：哲学委員会)	令和7年10月 5日(日)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
2	提案6	「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」 (企画：機械工学委員会)	令和7年11月 7日(金)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
3	提案7	「Future Earth と地球環境激変の10年：私たちはどこまで来たのか？これからどうすべきか？」 (企画：環境学委員会、地球惑星科学委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会)	令和7年11月 29日(土)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
4	提案8	「世界の防災の未来：災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」 (企画：土木工学・建築学委員会、防災減災学術連携委員会)	令和7年12月 9日(火)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要

5	提案 9	「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」 (企画：健康・生活科学委員会、環境学委員会)	令和 7 年 12 月 11 日(木)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要
6	提案 10	「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」 (企画：健康・生活科学委員会、臨床医学委員会)	令和 7 年 12 月 21 日(日)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1) 各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回

(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和 7 年度第 3 四半期】 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 11	「量子が世界を変える：科学の 100 年と未来への挑戦」(主催：物理学委員会)	令和 7 年 11 月 15 日(土)	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	不要	不要

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 3 件／土日 5 件／開催曜日未定 0 件） 全 8 件

(内訳) ※全件について、経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)		2	3	
	(平日)			3	
	(曜日未定)				
合計			2	6	

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全7件 残り：25件
（内訳）

	関連部等	第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部				
	第二部		1		
	第三部			1	
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）			2	3	
合計			3	4	

公開シンポジウム
「次の新興・再興感染症にどう備えるか」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部会、日本学術会議北海道地区会議、北海道 大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 8 月 7 日（木）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：北海道大学医学部学友会館「フラテ」フラテホール（北海道札 幌市北区北 15 条西 7 丁目）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：第二部夏季部会を同日及び翌日に開催予定

8. 開催趣旨：

自然界の野生動物が保有する病原体が社会に侵入し、人へと伝播する人獣共通感染症は、近年頻繁に発生し国際社会で問題となっている新興・再興感染症の大半を占めており、いまだ根絶が困難な喫緊の課題です。本シンポジウムでは、人獣共通感染症対策、ワクチン開発、創薬、構造解析、数理モデル、公共政策の専門家が最新知見を共有し、次の新興・再興感染症にどう備えるかについて、市民の理解と地域レジリエンス強化を図ります。

9. 次 第：

総合司会

玉腰 暁子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

13：00～

1) 開会の挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長（第二部会員）／国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長、理事長特任補佐）

宇山 智彦（日本学術会議第一部会員／北海道地区会議代表幹事／北海道大学スラ
ブ・ユーラシア研究センター教授）

13：10～

2）基調講演

座長

渡辺 雅彦（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院特任教授）

「次のパンデミックに備える ～インフルエンザと COVID-19 の経験を踏まえて～」

喜田 宏（北海道大学ユニバーシティープロフェッサー／人獣共通感染症国際共同研
究所特別招聘教授・統括／総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発
拠点特任教授）

3）講演

座長

澤 洋文（北海道大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点卓越教授／
拠点長兼生体応答解析部門長）

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野
血管生物分子病理学教室教授）

13：50～

講演1 「人獣共通感染症に対する対策」

澤 洋文（北海道大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点卓越教授・
拠点長兼生体応答解析部門長）

14：10～

講演2 「クライオ電子顕微鏡を用いた抗ウイルス薬・ワクチンの研究開発」

前仲 勝実（北海道大学大学院薬学研究院創薬科学部門生体分子機能学研究室教授／
人獣共通感染症国際共同研究所病原体構造解析部門教授）

14：30～14：40 休憩

14：40～

講演3 「新興感染症への疫学インテリジェンス提供の問題点と未来」

西浦 博（京都大学大学院医学研究科附属ヘルスセキュリティセンター危機インテリ
ジェンス部門教授）

15：00～

講演4「高病原性ウイルス研究者である公衆衛生医師の視点から COVID-19 流行対策を振り返る」

西條 政幸（札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当局長／国立感染症研究所（名誉所員））

15：20～

4）総合討論

モデレーター

渡辺 雅彦（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院特任教授）

玉腰 暁子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授）

パネリスト

喜田 宏（北海道大学ユニバーシティープロフェッサー／同大学人獣共通感染症国際共同研究所特別招聘教授・統括／同大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点特任教授）

澤 洋文（北海道大学総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点卓越教授・拠点長兼生体応答解析部門長）

前仲 勝実（北海道大学大学院薬学研究院創薬科学部門生体分子機能学研究室教授／人獣共通感染症国際共同研究所病原体構造解析部門）

西浦 博（京都大学大学院医学研究科附属ヘルスセキュリティセンター危機インテリジェンス部門教授）

西條 政幸（札幌市保健福祉局医務・保健衛生担当局長／国立感染症研究所（名誉所員））

15：50～

5）閉会の挨拶

神田 玲子（日本学術会議第二部部長／国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事）

16：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認、科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催部会及び地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「AI 時代に「対話」の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部会、日本学術会議北海道地区会議、公立はこだて未来大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 8 月 10 日（日） 9：30 ～ 11：50
5. 場 所：函館市亀田交流プラザ 講堂（北海道函館市美原 1 丁目 26-12）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：第一部会を同日及び前日に開催

8. 開催趣旨：

AI の急速な進展は、私たちの生活や社会の在り方に大きな変化をもたらしつつあります。その中で、他者と「対話する」ことの意味や可能性も、あらためて問われています。本シンポジウムでは、「AI 時代に『対話』の意味を考える—熟議がつむぐ知と社会」と題し、歴史学・哲学・地域研究・言語学・法学・社会学という多様な視点から、対話の意義や課題について議論します。

過去と向き合うこと、異なる文化や価値観を理解すること、社会のルールを築くこと—こうした営みの根底には、常に「対話」が存在しています。第一部では各分野の専門家から、対話をめぐる多様な論点を提示します。それを踏まえ、第二部では哲学対話の手法を用いて、参加者とともに「AI 時代の対話」について深く考えます。

なお、本公開シンポジウムは、「はこだて国際科学祭 2025」のプレイベントとして開催します。

9. 次 第：

9：30～9：35 開会挨拶

日比谷 潤子（日本学術会議副会長・第一部会員／国際基督教大学名誉教授）

9：35～10：40

第一部 シンポジウム「AI 時代に『対話』の意味を考える」

趣旨説明：

美馬 のゆり（日本学術会議第一部会員／公立はこだて未来大学システム情報科学部教授）

宇山 智彦（日本学術会議第一部会員／北海道地区会議代表幹事／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

話題提供① 歴史学から

「昔の人びとの声を聴く：歴史との対話から見えること」

大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

話題提供② 哲学から

「AI の時代に、人間って何？：哲学から考える対話の力」

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授）

話題提供③ 地域研究から

「難しい相手と、どうすれば話し合える？：世界の地域紛争から学ぶ対話」

宇山 智彦（日本学術会議第一部会員／北海道地区会議代表幹事／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

話題提供④ 言語学から

「通じたと思っても通じてない？：ことばとコミュニケーションの不思議」

定延 利之（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院文学研究科教授）

話題提供⑤ 法学から

「社会のきまりはどう生まれる？：対話からどうやって合意を作るのか」

只野 雅人（日本学術会議第一部副部長／一橋大学大学院法学研究科教授）

話題提供⑥ 社会学から

「文化の違いをどう乗り越える？：異文化理解から始まる対話」

岩井 紀子（日本学術会議第一部会員／日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学 JGSS 研究センターセンター長）

10:50～11:45

第二部 哲学対話：参加者と考える AI 時代の「対話」の意味

進行：河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授）

11:45～11:50 閉会挨拶

吉田 文（日本学術会議第一部部長／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認、科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催部会及び地区会議所属の会員）

公開シンポジウム
第 20 回防災学術連携シンポジウム
『複合災害に立ち向かう防災の知恵——新潟と能登の経験から』
の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 9 月 6 日（土）～ 9 月 7 日（日）
（2 日のうちのいずれか 90 分枠）
（防災推進国民大会 2025（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の期間内に開催）
5. 場 所：オンライン開催
※防災推進国民大会 2025 の中の一企画案
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし
8. 開催趣旨：
新潟県およびその周辺地域で過去に発生した地震、豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024 年に発生した能登半島地震の教訓を共有します。これらの災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災に関する最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家が発信します。そして、正しい自助・共助の行動へとつなげていくことを目的とします。本セッションでは、関連する分野の専門家をパネリストに迎え、一般の方にも分かりやすく防災につながるお話をいただく予定です。
9. 次 第：所要時間 90 分間

司会：山本 佳世子（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）
永野 正行（日本学術会議連携会員／東京理科大学創域理工学部建築学科教授）

- (1) 開会のあいさつ：竹内 徹（日本学術会議第三部会員／防災減災学術連携委員会委員長／東京科学大学名誉教授）（2分）
- (2) 趣旨説明：渦岡 良介（一般社団法人防災学術連携体幹事／公益財団法人地盤工学会会長／京都大学防災研究所教授）（2分）
- (3) 産業界より（タイトル未定）：北田 奈緒子（一般財団法人 GRI 財団理事）（15分）
- (4) 学術界より（タイトル未定）：溝口 敦子（名城大学理工学部科社会基盤デザイン工学科教授）（15分）
- (5) 学術界より（タイトル未定）：鯨田 泰子（神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授）（15分）
- (6) 学術界より（タイトル未定）：安田 進（東京電機大学名誉教授）（15分）
- (7) 行政界より（タイトル未定）：木村 一幸（国土交通省北陸地方整備局企画部事業調整官）（15分）
- (8) 質疑応答（8分）
- (9) 閉会のあいさつ：米田 雅子（一般社団法人防災学術連携体代表幹事／防災推進国民会議議員／宇都宮大学理事）（3分）
10. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため無
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「才能が芽吹く大学入試へ：日本の科学技術と大学教育のこれから」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会、公益社団法人応用物理学会
2. 日 時：令和7（2025）年9月8日（月）13：30 ～ 17：00
3. 場 所：名城大学天白キャンパス（愛知県名古屋市天白区塩釜ロー丁目 501 番地）（ハイブリッド開催）
4. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
5. 分科会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

急速に変化する社会において、次世代のイノベーションを牽引する多様な人材の育成は、日本の持続的な発展における最重要課題の一つです。この課題に対し、大学を中心に、入試制度や高等教育の在り方を見直す多様な改革が進められています。本シンポジウムでは、こうした大学入試・教育制度改革の先端を担ってきた学長（学長経験者）、副学長らをお迎えし、それぞれの改革に込めたビジョンと実現への道のり、残されている課題について語っていただきます。さらに、応用物理学会が描くイノベーション人材像と、実際の教育・制度改革や政策との接点を探るべく、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の有識者議員、そして応用物理学会会長にもご登壇いただき、産学官の立場からの多角的な対話を行います。本シンポジウムは、日本の教育制度の可能性をさらに広げ、未来のイノベーションを支える人材育成の新たな地平を切り拓く場とすることを目指します。

9. 次 第：

開会挨拶（5分）

木本 恒暢（日本学術会議連携会員／京都大学工学研究科教授／公益社団法人応用物理学会会長）

趣旨説明（10分）

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

高大連携等担当省庁が考える大学入試制度と次世代イノベーション人材（15 分）

奥 篤史（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）

有識者議員が考える大学入試制度と次世代イノベーション人材（15 分）

波多野 睦子（日本学術会議連携会員／東京科学大学理事・副学長）

大学学長が考える大学入試制度と次世代イノベーション人材 1（15 分）

杉山 直（日本学術会議第三部会員／名古屋大学総長／東海国立大学機構副機構長）

大学学長が考える大学入試制度と次世代イノベーション人材 2（15 分）

大野 英男（日本学術会議連携会員／東北大学総長特別顧問）

大学学長が考える大学入試制度と次世代イノベーション人材 3（15 分）

益 一哉（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所量子・AI 融合技術ビジネス開発グローバル研究センター長）

休憩（15 分）

QA・パネルディスカッション（95 分）

（QA セッション＋パネリストからの意見＋総合討論）

「才能が芽吹く大学入試へ：日本の科学技術と教育のこれから」

モデレータ：関谷 毅（日本学術会議第三部会員／大阪大学産業科学研究所教授）

閉会挨拶（5 分）

安達 千波矢（九州大学工学研究院教授／応用物理学会副会長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「社会の持続可能性と水問題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年9月13日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：京都大学芝蘭会館稲盛ホール（京都市左京区）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

私たちの暮らす地球は、その表面積の71％が水でできており、まさに「水の惑星」ともいわれてきました。また、水は生命の源でもあることはよく知られた事実です。なかでも山地や森林に恵まれた日本は、世界でも稀な「美味しい飲料水」に満ちた社会であり、歴史的にも私たちの生活は、農耕や水運などを含め水に支えられてきたと言ってもいいでしょう。

ところが、現在、水を巡ってさまざまな危機的状況が生まれつつあります。人口爆発は、私たちの生命を支える水の問題を顕在化させようとしています。また、水道の民営化問題は経済の発達した諸国を中心に様々な議論を呼び起こしつつあります。さらに、日本社会を振り返ってみれば、年初に埼玉県八潮市で発生した道路陥没の事件は、老朽化した上下水道の補修は待ったなしの課題であることを私たちに警告しています。

水という身近でありながら見落とされがちな問題を、歴史的にまたグローバルな視点も踏まえて、改めて考えてみたいと思います。

9. 次 第：

開会挨拶

- 主催者代表 三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事）
- 主催者代表 時任 宣博（京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長）

趣旨説明

伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授）

講演

- 基調講演 世界の水問題と科学技術の貢献
沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

- 講演1 水が作った近畿の歴史
鈴木 康久（京都産業大学現代社会学部現代社会学科教授）
- 講演2 日本の水辺と「さとうみ（里湖・里海）」
佐野 静代（同志社大学文学部文化史学科教授）
- 講演3 災害と水問題
サントリーワールドリサーチの方（予定）
- 講演4 水道インフラの維持管理問題におけるフューチャー・デザイン
～自治体での実践事例を基に～
原 圭史郎（大阪大学大学院工学研究科教授）
- 講演5 地球規模で水問題を考える
原田 英典（京都大学アジア・アフリカ地域研究科教授）

講演者らによるパネルディスカッション（コーディネーター：伊藤 公雄）

全体総括

- 村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

総合司会

- 村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）
- 矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第2回」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、歯学委員会、薬学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本看護系学会協議会
3. 後 援：公益社団法人日本看護科学学会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本病院薬剤師会、一般社団法人日本地域理学療法学会、一般社団法人日本理学療法学会連合、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、日本 NP 学会、国際看護師協会（ICN）、一般社団法人日本医療情報学会、一般社団法人日本医療・病院管理学会、日本運動疫学会、一般社団法人日本エイズ学会、一般社団法人日本衛生学会、日本衛生動物学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本疫学会、一般社団法人日本学校保健学会、日本健康学会、一般社団法人日本健康教育学会、日本健康支援学会、一般社団法人日本健康相談活動学会、一般社団法人日本口腔衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生看護学会、一般社団法人日本行動医学会、一般社団法人日本国際保健医療学会、日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会）、一般社団法人日本災害医学会、公益社団法人日本産業衛生学会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人日本循環器病予防学会、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本職業・災害医学会、一般社団法人日本女性医学学会、一般社団法人日本性感染症学会、一般社団法人日本地域看護学会、公益社団法人日本母性衛生学会、日本ワクチン学会
4. 日 時：令和 7（2025）年 9 月 28 日（日）13：00 ～ 15：30
5. 場 所：オンライン開催（You Tube 配信を併用）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

日本では、2008 年をピークに総人口が減少に転じており、現在、年間約 60 万人減少し、2070 年には 9,000 万人を割り込む。首都圏には人口が流入しており、地方での人口減少に拍車をかけているものの、東京の人口であっても 2030 年の 1,426 万人をピークに減少に転じるものと見込まれている。人口減少と人口偏在が同時に生じている我が国においては、人口動態に適応した医療提供体制の整備が求められる。

これまで、医療提供体制の現状や見通しを検討する際、医療サービス提供者の必要人員数（修了者数や登録者数）がカウントされ、需要に対して供給が追いついているかが評価されてきた。しかし、労働者人口の減少は、特定の専門職の不足や地域偏在を加速させる可能性があり、各専門家の人員数を指標とするのみでは医療提供体制の維持は困難であろう。

また、人口減少・人口偏在は地域のあり方自体を変化させる。厚生労働省が牽引する地域包括ケアシステムの構築はこれに応じるものであるが、システムのデザインは進んでも、人材に関する枠組みは大きく変わっていない。

そこで本分科会では、専門職の垣根を超えた議論を実現するために、医療専門職を「ヘルスケア人材」と呼ぶことを提案する。垣根を超えることで、各専門職の人員数の偏りよりも、人口減少社会における複雑な課題に応じる活動モデルや、共通して持つべき知識や技術、それに応じた教育のあり方、さらには各ヘルスケア人材が自律的かつ柔軟に活動できるあり方を検討できることを期待する。これによって、各専門家の人員数のみでは評価できない、国民が求めるヘルスケア人材のあり方の提案に繋がるであろう。そして、全ての国民がどこにいても必要なときに必要な質と量のヘルスケアサービスが享受できる体制の維持を目指す。

以上を目的として、本分科会では複数回の公開シンポジウムを企画する。

令和 7（2025）年 1 月 11 日に開催された第 1 回のシンポジウムでは、看護学、医学、理学療法学の立場から、それぞれの視点から見た人口減少や地域偏在などの直面する課題について共有を行った。

今般の 2 回目の公開シンポジウムでは、1 回目のシンポジウムから拡大し、ヘルスケア人材の専門分野として、看護学、歯学、薬学、介護学の立場から、それぞれの視点から見た人口減少社会の課題と求められる活動を提案してもらう。これらの提案を受けて、人口減少社会において求められるヘルスケア人材について検討したい。

9. 次 第：

挨拶

13:00 挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長／国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長・理事長特任補佐）

西嶋 康浩（厚生労働省医政局医事課長）

日比 謙一郎（文部科学省高等教育局医学教育課長）

第1セッション

◇総合司会

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員／東京都立大学副学長）

森山 美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

13:10 『歯科医師：すでに始まっている歯科における偏在問題について
（仮）』

恒石 美登里（公益社団法人日本歯科医師会日本歯科総合研究機構主任
研究員）

13:30 『人口減少社会の地域完結型医療を支える薬剤師の確保と育成』
崔 吉道（金沢大学附属病院薬剤部教授・薬剤部長／大学院医薬保健学
総合研究科教授）

休憩（10分）（13：50～14：00）

第2セッション

14:00 『人口過疎・ヘルスケア資源が限定的な地域における看護職の自立した
働き方』

山端 聡（奈良県吉野郡天川村村議会議員）

14:20 『変化を求められる対人支援専門職の基礎教育：諸外国の動向と我が
国における模索』

堀田 聡子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

総合討論

14:40

15:25 閉会の挨拶

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「科学におけるダイバーシティを考える
～自分らしい進路・キャリアパス選択のために～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
2. 共 催：北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所
3. 後 援：日本生命科学アカデミー、生物科学学会連合、日本農学アカデミー、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会
4. 日 時：令和7（2025）年10月4日（土）13:30～16:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

科学的思考は、生命科学や理工学のみならず、人文・社会科学を含むあらゆる学問分野に共通する普遍的な基盤である。近年、データサイエンスやデジタル・ヒューマニティーズなど分野横断型の融合領域が急速に拡大している。従来の「理系・文系」という枠組みを超えた多様な視点と経験による自由な発想が、次世代の革新的研究や技術開発の原動力である。しかしその一方で、「ジェンダー・ステレオタイプ」や「無意識のバイアス」が進路選択やキャリア形成に影響を及ぼし、才能ある人材が十分に能力を発揮できない状況が深刻な課題となっている。

本シンポジウムは、こうした無意識のバイアスの実態と影響を多角的に捉えつつ、大学・研究機関・企業が推進するジェンダー・ダイバーシティ戦略やキャリア支援施策の最新動向を共有し、科学分野における包摂的で持続可能な研究・教育環境の構築を目指すものである。本シンポジウムが、参加者一人ひとりにとって「学問の多様性は個の多様性に支えられる」という気づきをもたらし、将来に向けた前向きなキャリア像を共に描く契機となることを期待する。

9. 次第

座長 熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部食品開発学科教授）

東原 和成（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:30

1) オープニングリマークス

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授）

2) 挨拶

矢野 理香（北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長）

13:40

3) 講演 1

東村 博子（名古屋大学名誉教授・名古屋大学大学院生命農学研究科特任教授・前名古屋大学副総長（多様性・男女共同参画担当））

「科学の発展戦略としてのジェンダーダイバーシティ」

14:05

講演 2

杉山 明日香（株式会社オー・トロワ・ソレイユ代表取締役・予備校講師）

「物理学博士からワイン研究家へ～ダイバーシティ・ロールモデル～」

14:30

講演 3

北川 尚美（日本学術会議第三部副部長／東北大学大学院工学研究科教授・研究科長補佐(DEI 担当) ）

「中高生の進路選択における意識改革を目指した取り組みの紹介」

14:55

講演 4

矢口 祐人（東京大学副学長／東京大学グローバル教育センター長／東京大学大学院総合文化研究科教授）

「なぜ日本の「トップ大学」は男だらけなのか」

15:20-15:50 (30 分)

4) 総合討論 座長:竹山 春子（日本学術会議第二部会員／早稲田大学理工学術院教授）

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学
研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授）

15:50

5) クロージングリマークス

竹山 春子（日本学術会議第二部会員／早稲田大学理工学術院教授）

16:00 終了

10. 関係部の承認の有無：第一部承認、第二部承認、科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「縮小社会における地域の持続可能性」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会、経済地理学会北東支部
2. 共 催：北海道教育大学
3. 後 援： なし
4. 日 時：令和7（2025）年10月11日（土）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：北海道教育大学函館校（北海道函館市八幡町1-2）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

縮小社会の地域構想分科会は、人口の減少と東京一極集中という日本の構造的課題が短期的には解消されないとしても、地方圏の地域のレジリエンスを高めるために何が可能かを審議してきている。青函地域は、2024年4月に人口戦略会議が公表した『地方自治体「持続可能性」分析レポート』において「消滅可能性自治体」と認定された自治体を数多く抱えている。本シンポジウムは、経済地理学会北東支部との共同主催であり、2部構成で開催される。第1部は、青函地域において、人口減少に起因する社会課題への対応に尽力している実務家による講演である。第2部では、縮小社会の地域構想分科会の委員が登壇し、本分科会の活動の一端を発信する。日本学術会議ならびに経済地理学会関係者のみならず、自治体や地域経済の実務に携わる人が参加しやすいように、ハイブリッド開催とする。

9. 次 第：

開会挨拶：奥平 理（北海道教育大学函館校国際地域学科准教授）

13:00 趣旨説明

中澤 高志（日本学術会議第一部会員／明治大学経営学部教授）

第1部「縮小社会の地域構想：実務家の視点から」

◇第1部司会

櫛引 素夫（青森大学社会学部教授）

13:10 人口減少と地域：私たちは、どう生きるか（仮）

大中 幸子（青森県総合政策部 DX 推進課長）

13:35 地方都市の持続可能性を考える：函館の都市構造を事例として（仮）

永澤 大樹（函館商工会議所 中小企業相談所長）

休憩（10分）（14:00～14:10）

第2部「縮小社会の地域構想：学術の視点から」

◇第2部司会

田原 裕子（日本学術会議連携会員／國學院大學経済学部教授）

14:10 縮小社会の地域構想：人口減少と東京一極集中

小池 司朗（日本学術会議連携会員／厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部部長）

14:35 縮小社会の地域構想：圏域論

中澤 高志（日本学術会議第一部会員／明治大学経営学部教授）

15:00 縮小社会の地域構想：産業立地と地域政策

近藤 章夫（日本学術会議連携会員／法政大学経済学部教授）

15:25 縮小社会の地域構想：多文化共生

片岡 博美（日本学術会議連携会員／近畿大学経済学部教授）

休憩（15分）（15:50～16:05）質問用紙回収

総合討論

総合討論司会

初澤 敏夫（福島大学人間発達文化学類人文科学コース教授）

16:05 コメンテーター①

千葉 昭彦（東北学院大学経済学部教授）

16:20 コメンテーター②

嶋田 暁文（日本学術会議連携会員／九州大学大学院法学研究院教授）

16:35 質疑応答

17:30 閉会挨拶：松原 宏（元日本学術会議第一部会員／福井県立大学地域経済研究所所長・教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「AI 導入による有機・高分子化学の 10 年先の将来展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会有機化学分科会、化学委員会高分子化学分科会
2. 共 催：文部科学省データ創出・活用型マテリアル研究プロジェクト事業「バイオ・高分子ビッグデータ駆動による完全循環型バイオアダプティブ材料の創出」、科学研究費助成事業学術変革領域研究（A）「デジタル化による高度精密有機合成の新展開（デジタル有機合成）」
3. 後 援：公益社団法人日本化学会、公益社団法人高分子学会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 10 月 20 日（月）12：50 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（※今後ハイブリッド開催に変更となる可能性あり）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

近年、あらゆる分野で AI 利用への関心が急速に高まり、有機・高分子化学の分野も例外ではない。ビッグデータを活用したターゲット分子・材料の選定・設計、合成経路の探索、構造・物性の予測、プロセス管理の改善など、AI の応用範囲は広がり続けている。我が国が有機・高分子化学分野で世界をリードし続けるためには、AI の活用が必要不可欠と言える。こうした背景を踏まえ、日本学術会議化学委員会の有機化学分科会と高分子化学分科会は、有機・高分子化学分野における AI への期待と近未来像を展望するため、合同で公開シンポジウム「AI 導入による有機・高分子化学の 10 年先の将来展望」を開催する。本シンポジウムでは、アカデミアだけでなく産業界の研究者、政策関係者も登壇し、AI 活用における課題や可能性について議論する。

9. 次 第：

挨拶

12:50 趣旨説明

石原 一彰（日本学術会議第三部会員／名古屋大学大学院工学研究科有

機・高分子化学専攻教授)

第一部 講演

13:00 『AI が描く材料開発の新たな姿』

武田 征士 (日本 IBM 株式会社東京基礎研究所主席研究員)

座長: 山下 誠 (日本学術会議連携会員／東京科学大学理学院化学系教授)

13:30 『AI と化学者の“ひらめき”が共鳴する有機化学の未来』

大嶋 孝志 (九州大学大学院薬学研究院主幹教授・副研究院長、科学研究費助成事業学術変革領域研究 (A)「デジタル有機合成」領域代表)

座長: 眞鍋 史乃 (日本学術会議第二部会員／星薬科大学薬学部教授／東北大学大学院薬学研究科教授)

14:00 『有機化学はAI 技術をどのように使えるのか』

松原 誠二郎 (京都大学国際高等研究院特定教授)

座長: 中島 裕美子 (日本学術会議連携会員／東京科学大学物質理工学院応用化学系教授)

休憩 (10 分) (14 : 30～14 : 40)

第二部 講演

14:40 『ポリマーオミクス：データ駆動型高分子材料研究におけるデータプラットフォーム構築戦略』

吉田 亮 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所教授)

座長: 山子 茂 (日本学術会議連携会員／京都大学化学研究所材料機能化学研究系高分子制御合成研究領域教授)

15:10 『データ駆動高分子材料開発と”材料+Omics”』

内藤 昌信 (国立研究開発法人物質・材料研究機構高分子・バイオ材料研究センター理事長特別補佐・副センター長／筑波大学大学院数理物質科学研究科教授)

座長: 宮田 隆志 (日本学術会議連携会員／関西大学化学生命工学部化学・物質工学科教授)

15:40 『ビッグデータ駆動によるバイオ高分子材料の開発』

沼田 圭司 (京都大学大学院工学研究科教授／文部科学省 データ創出・活用型マテリアル研究プロジェクト事業「バイオ・高分子ビッグデータ駆動による完全循環型バイオアダプティブ材料の創出」プロジェクトリーダー)

座長：矢島 知子(日本学術会議連携会員／お茶の水女子大学基幹研究院
自然科学系教授)

休憩 (10 分) (16 : 10～16 : 20)

第三部 講演

16:20 『研究における AI 活用の期待：次期科学技術・イノベーション基本計画
における AI for Science 推進の方向性』

永澤 剛 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官 (統合戦略
担当))

座長：岸村 顕広(日本学術会議連携会員／九州大学大学院工学研究院応
用化学部門・分子システム科学センター准教授／内閣府
科学技術・イノベーション推進事務局上席科学技術政策
フェロー)

第四部 総合討論 (16:55～17:25)

パネリスト

武田 征士、大嶋 孝志、松原 誠二郎、吉田 亮、内藤 昌信、沼田 圭司、永澤 剛
モデレーター

栗原 和枝 (日本学術会議連携会員／東北大学未来科学技術共同研究センター教
授)

挨拶

17:25 閉会挨拶
上垣外 正己 (日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院工学研究科教
授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：有

カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

○国際会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 国際栄養学会議（International Congress of Nutrition IUNS-ICN2025）におけるシンポジウム “Cutting-edge nutritional research by promising young Japanese researchers”

主催：公益社団法人日本栄養・食糧学会

期間：令和7年8月26日（火）

場所：フランス、パリ（Palais des Congrès de Paris）

参加予定者数：約70名

申請者：公益社団法人日本栄養・食糧学会 会長 芦田 均

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○国内会議の後援（４件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第 66 回大気環境学会年会

主催：公益社団法人大気環境学会

期間：令和 7 年 9 月 17 日（水）～ 9 月 19 日（金）

場所：名古屋大学東山キャンパス

参加予定者数：約 500 名

申請者：公益社団法人大気環境学会 会長 中井 里史

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部承認

2. 第 27 回日本感性工学会大会

主催：日本感性工学会

期間：令和 7 年 9 月 17 日（水）～ 9 月 19 日（金）

場所：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

参加予定者数：約 500 名

申請者：日本感性工学会 会長 上條 正義

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

3. 第 46 回日本熱物性シンポジウム

主催：日本熱物性学会

期間：令和 7 年 10 月 8 日（水）～10 月 10 日（金）

場所：佐賀県立男女共同参画センター・生涯学習センター「アバンセ」
（佐賀県佐賀市）

参加予定者数：約 200 名

申請者：日本熱物性学会 会長 桃木 悟

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

4. 化学工学会第 56 回秋季大会特別シンポジウム

「2050 年カーボンニュートラルへの道」

主催：公益社団法人化学工学会 地域連携カーボンニュートラル推進委員会
戦略推進センター CCUS 検討委員会
戦略推進センター SDG s 検討委員会

共催：一般社団法人触媒学会

期間：令和 7 年 9 月 19 日（金）

場所：東京ビッグサイト（オンライン併用）

参加予定者数：約 200 名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 永松 治夫

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第387回幹事会	令和7年7月28日（月）	14：30から
第388回幹事会	令和7年8月29日（金）	14：30から
第389回幹事会	令和7年9月26日（金）	14：30から
第390回幹事会	第195回総会期間中に開催	
第391回幹事会	令和7年11月27日（木）	14：30から
第392回幹事会	令和7年12月23日（火）	14：30から
第393回幹事会	令和8年1月27日（火）	14：30から
第394回幹事会	令和8年2月27日（金）	14：30から
第395回幹事会	令和8年3月23日（月）	10：00から

●総会

第195回総会	令和7年10月27日（月）～29日（水）
---------	----------------------